

取り組み報告（事例紹介）

社会福祉法人おおなん福祉会
特別養護老人ホームあさぎり

眠りスキャンと創る「ゆとり」と「生産性向上」

～創造的なケアの提供に向けて～

事業所概要

- ・法人名-事業所名：社会福祉法人おおなん福祉会 特別養護老人ホームあさぎり
- ・地域：邑智郡邑南町
- ・介護サービスの種類：介護老人福祉施設
- ・職員数：31人
- ・ICT・介護ロボット導入実績（支援開始前の時点）：介護記録システム（ほのぼの）
Wi-Fi 環境の整備

プロジェクト体制

	役職	所属	プロジェクト上の役割
1	施設長	特別養護老人ホームあさぎり	統括責任者、事務担当
2	生活相談員	特別養護老人ホームあさぎり	リーダー、調査・研修・報告担当
3	介護職員	特別養護老人ホームあさぎり	調査・研修・報告担当

■生産性向上委員会の有無…有り 今後の体制【 今回のプロジェクト体制を継続 】

取り組みの目的

人口減少という大きな課題によって、職員不足が顕著となり、介護サービスの提供の質が問われている。利用者様へゆとりをもったかわりが減ってきている現状に不安と危機感を感じている職員も多くいる。そのような現状を打開する一つの方法として、ICT 及びテクノロジーの導入を考えていた。

あさぎりの課題に対して、どのような機器を導入することが良いのか、また職員の負担軽減につながる為にもテクノロジー等導入支援の専門家派遣モデル事業に参加した。

目的達成に向けたテーマと取り組み

	テーマ	取り組み内容
1	眠りスキャン導入	眠りスキャンを全床に導入し、夜勤業務の生産性向上を図る。
2	通信環境整備	眠りスキャン導入目的とした通信環境の強化。 ほのぼのシステムとの連携 PC 及びスマートフォンの導入
3	生産性向上意識改革	専門家による内部研修 外部研修への参加（島根県介護補助スタッフ導入活用セミナー：川本会場）
4	業務工程の見直し	タイムスケジュールの検討/業務工程の見直し

（１）専門家との取り組み

時期（年月日）	取り組み内容	取り組みのポイント
令和6年9月11日	・介護現場における生産性向上（業務改善）の捉え方 ・テクノロジーの活用・導入について	・業務改善の順番 ・島根県介護ロボット等導入支援事業補助金の活用方法
令和6年10月28日	・島根県介護ロボット等導入支援事業補助金を活用することにより、生産性向上の為の見守り機器（大量発注）の導入について	・島根県介護ロボット等導入支援事業補助金の申請について
令和6年11月25日	・テクノロジーの活用・導入前に介護職員に向けた生産性向上の取り組みについての講義	・介護職員に生産性向上の取り組みについての講義をしていただいたことにより、職員の意識の共有
令和7年 1月27日	・機器の導入前に職員が取り組んだ対比項目の結果を考察。	・対比項目：万歩計の歩数、訪室回数、心理的負担評価の導入前結果から導入後の目標の導き方について
令和7年2月28日	・導入前・後の効果測定について検証 ・今後の生産性向上の方向性検討	・機器導入後の調査結果や課題に対する気づきなどを職員と共有し、可視化する方法

（２）事業所の取り組みとその結果

時期（年月日）	取り組み内容
令和6年12月11日	機器導入前、心理的負担評価（SRS-18 活用）
令和6年12月17日	機器導入前、夜勤者2名の「歩数測定」 ① 16:45～9:45 ②17:00～10:00
令和6年12月17日	機器導入前、夜勤者の「訪室回数測定」
令和7年1月31日	機器導入後、夜勤者2名の「歩数測定」 16:45～9:45 ②17:00～10:00
令和7年1月31日	機器導入後、夜勤者の「訪室回数測定」
令和7年2月26日	機器導入後、心理的負担評価（SRS-18 活用）

	効果検証（定量・定性）	取り組み前と後の変化	測定方法	頻度
1	夜勤業務における「歩数測定」	●定量 導入前（平均） 14452 歩 導入後（平均） 13741 歩 減少数 711 歩 ●定性 負担感減少の声 気持ちのゆとりありの声 その他	歩数計 【期間】 前：12/17-1/12 後：1/31-2/26	毎日
2	夜勤業務における「訪室回数測定」	●定量 導入前（平均） 240.1 回 導入後（平均） 94.4 回 減少数 145.7 回 ●定性 負担感減少の声 気持ちのゆとりありの声 その他	各部屋訪室回数記録 【期間】 前：12/17-1/12 後：1/31-2/26	毎日
3	心理的負担評価	●定量 対象者 12名 負担減少 8名 負担増加 2名 変化なし 2名	SRS-18 活用	導入前後

効果検証

	生産性向上の項目	取り組み前の状況	取り組み後の変化
1	職場環境の整備	業務に必要な書類、備品類は部門単位に整理されている。	眠りスキャン専用のPCの導入。Wi-Fi環境の整備を強化した。
2	業務の明確化と役割分担	業務の明確化と役割分担は確立している。正規職員は全体に占める割合が少ないため、記録等のデータ入力業務及び夜勤シフト組み、委員会の役割分担等、負担が生じている。非正規職員含む業務分担の見直しが課題。	継続課題。
3	手順書の作成	業務手順書はある。日常業務内容が手順書通りに行われているか確認が必要。また、定期的な見直しについて検討を要する。	業務手順書を確認し、無駄な時間を把握するが、具体的な見直しはできていないため、継続課題とする。

	生産性向上の項目	取り組み前の状況	取り組み後の変化
4	記録・報告様式の工夫	介護記録はPCに直接入力。介護計画書は関係者で相談のうえ手書きでまとめ、担当者がPCに入力する。	夜勤者が眠りスキャン導入で訪室回数が減少したことにより、PC入力の時間が以前より多くとれた。
5	情報共有の工夫	・申し送り事項は口頭で確認のうえ、PCに入力する。 ・ピッチ5台で業務情報を連携する。 ・各部門で常に利用者の情報をPCで確認できる状態にある。	・夜勤者は眠りスキャン導入時、合わせて眠りスキャン専用のスマートフォンを2台導入したことにより、移動時でも情報が確認できるようになった。 ・各職種で眠りスキャンの情報をPCで確認できる状態にした。
6	OJTの仕組みづくり	生産性向上の内容がわからず、仕組みづくりの検討はできなかった。	専門家による生産性向上に関する講義の実施。
7	理念・行動指針の徹底	取り組めていなかった。	継続課題。

継続課題

テーマ	内容
①補助スタッフ持続可能体制	補助スタッフの確保と体制の整備
②生産性向上委員会の推進	持続的な取組。
③コミュニケーションツール導入と情報共有強化	ほのぼのトークの活用推進
④業務工程表の見直し	工程表見直し/オムツ交換回数検討/体位交換のあり方検討
⑤ICT機器、介護ロボットの施設に必要な機器の導入	ほのぼのトークシステム その他

モデル事業所の感想

成果として、

- ① 業務手順書の見直しができた。
- ② 介護現場における生産性向上の理解を深められた。
- ③ 眠りスキャンをはじめ、機器の導入ができた。
- ④ 機器の導入をしたことにより、一部の職員より気持ちのゆとりができたと言があがった。

今後の課題として、

- ① 補助スタッフの確保をすることにより、日中にゆとりの時間を設け、利用者様とのかかわりを持っていくこと。ならびに日中に職員の会議等の実施ができるように努める。
- ② コミュニケーションツール導入と情報共有強化として、ほのぼのトークの活用推進。
- ③ 業務手順書の見直しと改善（おむつ交換回数検討、体位変換ツールの検討）

※テクノロジー等導入支援の専門家派遣モデル事業に選出され、課題が明確になり取り組んで得られた成果はあさざりにとって大きな自信となった。

※今回生産性向上の知識を得たことを基に、今後の課題を一つ一つ解決していけるよう、取り組んでいきたい。

※テクノロジー等導入支援の専門家派遣モデル事業所に参加させていただきありがとうございました。

伴走支援専門家【社会福祉法人みずうみ 法人本部 室長補佐 武田和也】

【特別養護老人ホームあさざりにおける支援活動の経緯と成果】

事業所の目的は明確で、人口減少において加速する職員不足に対して、いかに生産性を向上させ、事業継続をしていくのかであった。まずは、ヒアリングを通して現状の課題と今後の方向性を検討し、生産性向上に取り組む事とした。

1. 今後の方向性

- (1) 介護における生産性向上の捉え方（意識改革）
- (2) 補助金を活用した、介護ロボットの導入
- (3) 現時点で導入している、テクノロジーの再活用検討

まず、取り組んだ事は課題の抽出とその優先順であった。その中で、「夜間帯の負担軽減と生産性向上」という目標ができ、補助金を活用した、見守り機器の導入（眠りスキャン）に向けて計画をたてる事となる。合わせて、生産性向上の意識改革を行う事で、生産性向上の推進を行うこととした。

2. 効果検証と成果

- (1) 夜勤職員の歩数検証（歩数計活用）
- (2) 夜勤業務の訪室回数
- (3) 心理的負担評価（SRS-18 活用）

眠りスキャン導入「前」「後」について検証。結果として、歩数、訪室回数共に減少となり、比例して職員の心理的負担も12名中8名が減少し、定量/定性ともに大きな成果が生まれた。これは、課題克服の為に職員が一丸となり生産性向上に取り組んだ賜物であり、職員の皆さんに敬意と感謝申し上げたい。

3. 今後の方向性

生産性向上で生まれた時間をどう活用していくのが重要となります。その際、【生産性向上と質の確保のジレンマ】という視点が重要です。生産性向上を追求する中で、サービスの質をどう維持・向上させるかを絶えず意識し、「利用者ファーストのための職員ファースト」という理念に基づき、今後も継続的な改善を進めていくことが求められます。合わせて、改善を持続可能なものとする為には、人材育成という視点も忘れないでいただきたいと思います。

4. まとめ

このモデル事業が打ち上げ花火ではなく、持続可能な取組となるよう、下記のキーワードを意識しつつ、既に取り組みを継続されている「外国人材の活用」も合わせた生産性向上の推進を期待します。

【生産性向上の図る為のキーワード】

- A) 生産性向上のジレンマへの対応（生産性向上ベクトルと質の確保ベクトルの共存）
- B) 「利用者ファースト」の為の「職員ファースト」
- C) 気持ちの良い入浴ケアのあり方
- D) 清潔感のある排泄ケアのあり方
- E) 喜びあふれる食事ケアのあり方
- F) 充実した時間を共有できる余暇時間/夜勤体制のあり方

○活動の様子

